



特定非営利活動(NPO)法人 柔道教育ソリダリティー



趣旨

国際的な柔道の普及 「自他共栄」を実現するために

現在、国際柔道連盟(IJF)には、195の国と地域が加盟しています。柔道は、一流競技者から一般市民に至るまで愛好され、各国の文化的特性と融合しながら創始者嘉納治五郎師範が掲げた「自他共栄」の実現を目指しています。

柔道を通して日本の心を伝え、様々な国との文化交流に役立てたい

昨今の国際情勢を見ると、紛争やテロ、地球環境の劣化、南北格差の拡大、人口増加など問題が山積みされています。そのような状況の中、一部の発展途上国では柔道の指導者、道衣、畳、教材などが不足し、柔道を学びたくても学べない現状があります。IJF加盟国の普及、振興に努めていきます。

今、大切なことは、子ども達をいかにして育てていくかということです

柔道を通して世界中の人々が心を通い合わせ、お互いの文化を理解することが「自他共栄」を実現することの近道と考えております。これからの社会を担っていく青少年を、柔道を通して育成することが大切であると考えております。

平和
友情
柔道

特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 会報第2号

2007年6月1日 発行

発行人: 山下泰裕

発行所: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117

東海大学 体育学部武道学科 第5研究室

TEL: 0463-58-1211 (内線3524)

FAX: 0463-50-2230

Email: judo3524@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp



Vol. **2**

<http://npo-jks.jp>

柔道教育ソリダリティーとは…

柔道の国際的な普及に寄与するとともに、その活動を通じて人と人との交流を図り、異文化理解を進め、もって日本のさらには世界の青少年教育に寄与することを目的とした組織です。

2006年度の活動を振り返って



特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティーを立ち上げた2006年度は、多くのご賛同を頂き順調に活動を進めることが出来たことに心から感謝しております。当法人の趣旨や活動内容は国際柔道連盟(IJF)教育コーチング理事としての活動にリンクするものですが、新しい組織を立ち上げるについては、やはり一つの大きな決意が必要でした。

さて主な活動を振り返れば、IJFでは柔道セルフディフェンス・カンファレンス(柔道護身術会議)を南米のドミニカ共和国サントドミンゴ市で、IJF女性コーチングセミナーを福岡県宗像市でそれぞれ初めて開催いたしました。双方ともに多くの方が参加し、大盛況に終わることが出来ました。これらの行事に当法人も協力しました。

さらに外務省「草の根無償資金協力」と協力して進めている「中日友好青島柔道館」の開設は、順調に進み2007年の秋に完成する予定です。開設後は、NPO法人柔道教育ソリダリティーより指導者を派遣し、中国と日本の柔道を通じた文化交流を推進したいと思っています。

2006年末に行われました第1回総会・記念講演会・交流会は、トヨタ自動車株式会社取締役相談役の奥田碩様に講演をしていただきました。こうして振り返ってみますと、本当に多くの方々に支えられて初年度を充実したものにする事が出来ました。2007年度も事務局一同と共に努力していく所存ですので、ご協力をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事長

山下泰裕

NPO法人柔道教育ソリダリティー 主な活動(2006年12月～2007年5月)

年月日	内容
2006年12月19日	2006年度第3回理事会・第1回総会・記念講演会・交流会を開催(東京都)
2006年12月24日～25日	サニックス柔道大会視察、ロシア北オセチアの選手たちへリサイクル柔道衣贈呈(宗像市)
2006年12月12日～13日	第1回 国際柔道連盟(IJF)女性コーチングセミナーを開催(宗像市)
2007年2月2日～10日	パリ日本文化会館の10周年記念事業のため、フランス3都市にて柔道指導と講演(フランス)
2007年2月13日	北オセチアの子供たちへ畳と柔道着を贈呈(サンクトペテルブルグ・ロシア)
2007年2月15日	NPO法人柔道で世界をつなぐ育成クラブを支援
2007年2月26日～3月1日	中国青島「中日友好青島柔道館」の視察(青島・中国)
2007年3月3日	松前柔道塾開塾30周年記念「生涯柔道シンポジウム」を支援(東京)
2007年3月4日～21日	中国男子柔道チーム、日本で強化合宿(東海大学)
2007年4月11日	2007年度第1回理事会を開催(東京)

1



1 フランス、マルセイユの子供たち(パリ日本文化会館10周年記念柔道指導)

2



2 奥田碩氏の講演会

3



3 大勢の参加者が集った第1回総会後の交流会

日本の心、柔道を世界へ伝えるために・・・

リサイクル柔道衣

1990年より国際柔道連盟(IJF)教育コーチング委員会、全日本柔道連盟及び東海大学の合同事業として、古柔道衣を柔道発展途上国に送る「リサイクル柔道衣」活動が行われてきました。2006年度までに、合計34,764着を世界各国へ送付しました。

2006年度は、国際協力機構(JICA)の協力を得て、これまで送ることが難しかった国・地域にも柔道衣を送りました。



リサイクル柔道衣の倉庫を整理する学生ボランティア



北オセチアへの柔道衣は、手荷物として持ち帰りました



発送を待つ柔道衣

協力者報告

本年度(2006年)は、53名(団体含む)の方々から、上衣4046着・下衣2556着のリサイクル可能な柔道衣をいただきました。この柔道衣は、東海大学柔道部によりサイズ別に分けられ発送されます。来年度(2007年)からは、より多くの国へリサイクル柔道衣を送れるように努力していきます。

協力者	53名(団体含む)
受け取った柔道衣	4046着(上)2556着(下)
送った柔道衣	1731着

2006年度

柔道衣・畳の寄贈式

2月13日山下理事長がロシア・サンクトペテルブルグにて、北オセチア地方の子供たちに柔道衣・畳を寄贈しました



贈呈式を行ったサンクトペテルブルグの道場

2004年にテロリストが北オセチアのベスランの学校を占拠して、大勢の子供たちが犠牲になりました。ベスランは柔道が非常に盛んな地方でもあります。2005年より、外務省と我々との協力でテロで傷ついた子供たちを励ますことを目的として、日本の国際柔道大会にベスランの子供たちを2度招聘しています。初回より日本の中学生と柔道を通じて温かな交流を持っています。

しかしながら、ベスランはいまだに物資の流通が悪いため、柔道衣や畳などの道具を購入することができずにいる子供たちが多くあります。そこで柔道を修業したい子供を支援するため、当法人は柔道衣100着、柔道畳100枚を贈呈いたしました。柔道衣に関しては当法人会員のミスノ(株)と早川繊維工業(株)の全面的なご協力を頂くことが出来ました。

寄贈式はサンクトペテルブルグ市で行われ、たくさんの地元の子供たちが参加し、また同市代表、同市日本総領事、北オセチア州代表、ベスランチームの指導者、そしてベスランの子供たち約20名が出席しました。ささやかではありますが、この交流事業を行ってわずかでも日露の友好親善に役立ったことは有意義でした。

月刊「武道」2007年6月号にこの活動をエッセイとして発表しています。

「ベスランの柔道家たちへのプレゼント」ロシアの新聞より 日本で最も尊敬される柔道家山下泰裕がサンクトペテルブルグへやってきました！

山下氏の目的は、若いベスランの柔道家たちにプレゼントを渡すこと、子供たちに柔道指導を行うことでした。山下氏は、ベスランのコーチのアベタ・コチエフ氏に100着の柔道衣と100枚の畳をプレゼントしました。ベスランの柔道クラブ「YAWARA・M」の会長、ワシリ・シエスタコフ氏は、ベスランの子供たちが、2006年の12月に「日出国へ」行ったこと。そして逆に日本の子供たちが2007年の3月にサンクトペテルブルグに来ることを話しました。

私はベスランチームのコーチと話をしました。「私は、柔道の大会で行った日本の福岡の街を忘れることが出来ません。私達のチームには、ヨーロッパチャンピオンが2人います。けれど、テロの被害にあった人の中に7人のスポーツ選手がいたことを忘れることが出来ません」と彼は言いました。

山下氏は、2時間ほど柔道指導を行いました。参加者は時間が経つのを忘れるほどでした。



北オセチア柔道チーム監督と



日本の心、柔道を世界へ伝えるために・・・

第1回IJF女性コーチングセミナー

12月13日～17日 国際柔道連盟(IJF)による女性コーチングセミナーを支援し女性パネラーを招聘いたしました

国際オリンピック委員会(IOC)、国際柔道連盟(IJF)の大きな取り組みの一つである女性のより積極的な柔道への参加のために、福岡県宗像市で女性コーチングセミナーを開催いたしました。このセミナーでは、女性選手のネットワークの構築、女性コーチの技術レベルアップ、女性ならではの問題など今まで取り上げられなかった内容が話し合わせ、今後につながる幅広い討議となりました。パネラーのお二人とセミナー企画運営を行ってくださった山口香先生の報告文を紹介します。



女性コーチングセミナーの練習所で参加者と

ラスティ・カノコギ

Ms. Rusty Kanokogi (米国)

記念すべき「第1回IJF女性コーチングセミナー」にご招待していただきありがとうございます。セミナーは想像以上に大成功に終わりました。参加者は様々な柔道の技術を学び、国に関わらず同じように持っている感想をお互いに交換することが出来ました。このことは将来の女性柔道指導者や審判などの大きな励みとなりました。今まで会ったことのない様々な国のコーチたちと素晴らしい友情を柔道を通じて築くことが出来ました。セミナーを支えてくださった国際柔道連盟と全ての参加者に感謝したいと思います。そして、全日本柔道連盟の素晴らしい支援にも感謝申し上げます。このセミナーを企画された山下さんの発想は、柔道チャンピオンから全ての柔道家への大きな援助として素晴らしい広がりの実例となることでしょう。



パネラーのラスティ・カノコギさんパット・ウォーレンさんと

パット・ウォーレン

Ms. Pat Warren (ジンバブエ)

第1回IJF女性コーチングセミナーのプログラムは、三井住友海上火災柔道部監督の柳沢さんのレクチャーで始まりました。私の国ジンバブエは国際キャンプがまだ行われたことはありません。けれども、今回のセミナーに出席し柔道コミュニティを設置するよう私自ら働きかけることにいたしました。また、女性ならではのセクシャルハラスメントなどの問題は、今後IJFでガイドラインを作ることとなりました。IJFメディアコミッションのミッシェル・ブルースさんは、フランスにおけるコーチと女子選手への方針をお話され、とても興味深く参考になることばかりでした。最後に山下さんから「子供たちへの柔道指導」のDVDと素晴らしい柔道用具を頂きました。このセミナーに参加し、素晴らしい経験をさせていただいたことに心より感謝いたします。



セミナーを支えてくださった山口香先生

山口 香

Ms. Kaori Yamaguchi (日本)

参加者はどのプログラムに対しても非常に熱心かつ積極的でした。参加者たちの交流も盛んに行われ、それぞれのメールアドレスの交換と今後引き続いてのつながりが約束されました。女子柔道の技術力向上の次の段階として、指導者や審判の育成が望まれています。そんな中で第1回IJF女性コーチングセミナーが開かれたことは非常に意義深いことだと思います。今後、定期的にこのような活動が行われ、女子柔道が選手のみならず、指導者においても優れた人材を輩出していくことを期待いたします。

記念講演会

12月19日第1回総会・記念講演会・交流会を開催いたしました
講演会は、講師に当法人顧問の奥田碩氏を迎えました



霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館で行われた講演会の様子

第1回総会ならびに奥田碩様(トヨタ自動車取締役相談役)の講演会、交流会が無事終了いたしました。師走のお忙しい中、会員の皆様にご参加いただき大変嬉しく思っております。

とりわけ奥田様には、当法人の設立発起人として、さらに設立後は顧問として、ご支援賜っております。約一時間にわたる熱のこもったお話の中には、我々の活動に対する励ましのお言葉がたくさんありました。奥田様の励ましに恥じないよう活動を展開しなければならないと思っております。

交流会では、当法人の顧問松前達郎(東海大学総長)先生に挨拶と乾杯の音頭をとっていただきました。そして、認定NPO法人スペシャルオリンピックスジャパン名誉会長の細川佳代子様、元(株)電通常務取締役、ぴあ(株)常任監査の入江雄之様、そして(株)フジテレビジョン「報道2001」のメインキャスターであります黒岩裕治様、エスピー食品(株)の瀬古利彦様が挨拶をして下さいました。

総会、講演会、交流会を通して、多くの方々から言葉では表現しがたい活力を頂いたように思います。2007年は、さらに飛躍する年にしたいと思っております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

謝辞 理事長 山下泰裕

柔道を通じた異文化交流、異文化理解のために

日中友好青島柔道館

2007年秋開館予定の日中友好青島柔道館へ、橋本敏明副理事長と国際武道大学柏崎克彦教授が視察に行きました



青島体育局長の彭一念副局長と



青島第2体育館入口

2月26日(月)青島に到着後、中国柔道協会女子部門長・青島市柔道協会理事長徐殿平氏ほか役員に出迎えていただいた。その後、ホテル内のレストランにて徐氏、時峰氏(国際武道大学大学院修了、国際担当、通訳)、柔道協会職員と打合せ。柔道クラブ運営に関する資料を元に説明し、意見交換する。また夕食会では、青島市柔道協会事務局の方々、及び国際武道大学で研修中(予定者含む)の柔道練習生等と懇談した。

2月27日(火)青島市第二体育館を視察。二階を柔道場に改装する計画について説明を受ける。日本でいうところの中高一貫スポーツ専門学校である「青島市体育運動学校」を訪問した。中国トップレベルの各種目運動施設が建設されていた。その後、青島市体育局を訪問し、周鵬拳局長、彭一念副局長、徐殿平氏等関係者と「中日友好青島柔道館」の構想について意見を交換した。

2月28日(水)青島市郊外(車で約一時間半)のアテネ五輪女子柔道銀メダリスト劉選手ゆかりの柔道場(学校)を訪問し、柏崎教授が実技指導を行った。その後、劉記念柔道場が設置される学校、及び劉選手の生家を訪問した。また、青島市柔道協会事務局を訪問し、青島市柔道協会と夕食会を開催、友好を深めた。

柔道場建設について

安全性に留意すること。畳のスペースは全面に畳を敷く方がよい。柔道関係者の意見を尊重して欲しいなど。

設立後の運営について

スポーツ振興策の違いがあるので一概には言えないが、青島市側の意見からは、選手育成の基礎(優秀な少年の発掘・育成)としての機能を求めていることがうかがえた。「日中友好」と「自他共栄」の精神に則った活動を展開することの意義を確認した。

スポーツ振興について

体育・スポーツに関する学校の整備が図られている。柔道については、今後指導者の育成が急務だろう。ジュニア期、及び女子柔道に焦点を当てて振興が図られるのではないだろうか。現在は、北京五輪での女子柔道メダル獲得(劉選手)に向けて全力を傾けている様子であった。

支援活動について

運営への助言、及び人材育成の側面に協力することが可能と思われる。



王華

中国青島で中学から柔道を始め2003年まで中国国家隊に所属

強化合宿で訪れた日本の柔道環境に感動し、日本の柔道を学ぶために日本に参りました。そして、国際武道大学で2年間日本語と柔道を勉強しました。

2007年に開設予定の「中日友好青島柔道館」で日本式の柔道館運営をするための勉強を、東海大学に移って行っております。

「中日友好青島柔道館」開設後は、青島の子供たちに、現在私が学んでいる日本の柔道を教え、青島と日本の架け橋になれるよう努力していきたいと思っています。

中国男子柔道ナショナルチームを北京オリンピックまで支援いたします

強化合宿

3月4日～21日まで中国男子柔道ナショナルチームが来日し、東海大学にて強化を行いました



中国男子柔道ナショナルチームは3月4日～21日までの3週間、東海大学を中心に強化合宿を行いました。日本の様々な柔道に接し、強くなって欲しいという当法人の支援のもとに東海大学体育学部光本健次教授、国際武道大学柏崎克彦教授が強化にあたりました。初めは新しいコーチングに戸惑っていた選手たちも日本でもトップレベルのコーチに鍛えられ、練習意欲がより一層高まってきました。今回で来日4度目になる斯日吉嘎瓦選手は「厳しいです。大変ですけど、日本の先生に稽古をつけていただけるのは光栄です。残りわずかな練習日ですが、精一杯頑張りたい」と抱負を語っていました。

当法人では、北京オリンピックに向け、今回の合宿でコーチを務められた光本教授を中国に長期で派遣する予定です。



技の説明を受ける選手達



光本健次

東海大学体育学部教授

モスクワ五輪で金メダリストを獲得したスイス人を育てる。その後、東海大学付属高輪台高校を日本一に導き、全国優秀監督賞を受賞した。現在は、IOCオリンピックソリダリティーコースの指導者として世界で活躍。



柏崎克彦

国際武道大学体育学部教授

第12回世界柔道選手権優勝、全日本柔道体重別選手権優勝の戦歴を持ち、英国、ドイツ、中国等世界20数ヶ国にてナショナルチームを指導した経験を持つ。



柔道を通じた異文化交流、異文化理解のために サニックス旗福岡国際中学生柔道大会

大会に参加する外国人中学生を支援



ベスランチームの監督たちと

2006年12月24日～25日に、第4回サニックス旗福岡国際中学生柔道大会が福岡県宗像市のグローバルアリーナで行われました。今回は海外8チーム、国内63チーム、計71チームが出場し、当法人で支援しております北オセチア地方ベスラン柔道クラブの少年たちも来日しました。この大会に当法人事務局光本恵子事務局長と川戸円が視察に行きました。



試合前の緊張した様子

今年からベスランチームはこの大会に参加するだけでなく福岡県大牟田市大隈中学校の稽古に参加しました。練習の合間に日本の中学生と言葉を交わす場面が見られました。昨年来日した選手もいて、「一年ぶり元気?」「ベスランを地図で調べたよ」と中学生ならではの微笑ましい会話がありました。

サニックス旗福岡国際大会はグローバルアリーナ内の大体育館で行われました。当法人が支援しておりますベスランチームは2回戦からの出場です。松山市立桑原中学校(愛媛)と試合を行い4-1で勝ち、続く3回戦では本郷中学(福岡)に5-0と快勝しました。しかし、4回戦で前大会優勝の大成中学(愛知)に2-3で惜しくも敗れました。

同じロシア出身のサントペテルブルグチームは体格の大きさを生かした力の柔道で2回戦崇徳中学(広島)に4-1、3回戦で田隈中学(福岡)に4-1で勝ち、続いて4回戦北辰中学校(石川)に4-1、準々決勝旭川市立永山中学校(北海道)に3-1、準決勝大蔵中学校(福岡)と4-0に勝利を収め決勝まで進みました。決勝で相模原市立相模原中学校(神奈川)に1-4で破れ惜しくも準優勝となりました。

同日、リサイクル柔道衣をベスランチームに贈呈しました。軽いもの(1号2号)を手渡し、後日、大きなサイズの柔道衣と畳を郵送することになりました。ベスランの選手は嬉しそうに柔道衣を受け取り、「国で待っている仲間に渡すことが出来るのがとても嬉しい。支援して下さっている日本の皆様に本当に感謝しています」と喜びを表しました。



準優勝と大健闘



フランスで柔道指導・講演

国際交流基金との協力で山下理事長がフランス3都市(パリ・マルセイユ・ボルドー)へ

山下泰裕理事長は2月2日～10日までフランスのパリ日本文化会館(国際協力基金が海外に持つ文化会館の一つ)の10周年記念行事として、フランス3都市(パリ・マルセイユ・ボルドー)で柔道の実技指導と講演を行いました。山下理事長の報告文を紹介します。



柔道指導者への技術指導(パリ)

ボルドー・マルセイユで子供たちに柔道指導を行いました。参加者は驚くことに1000人に及び観衆を含めると1500人以上にもなりました。パリでは柔道指導者を対象とした実技指導にもかかわらず150人もの柔道家が集まり、フランスでの柔道人気の根強さが感じられました。柔道指導の様子は多くの地元の新聞にも取り上げられました。フランスで柔道が盛んな要因として、柔道が人間教育的価値の高いものとして受け入れられているのを感じました。柔道の練習を通して「礼儀正しくなる」「挨拶が出来るようになる」「他者を思いやり仲間と協力することが出来るようになる」。フランス柔道連盟ではこのようなことを前面に出しながら柔道の普及に関わっていました。



子供たちへの柔道指導(ボルドー)

講演会に先立ち、フランス柔道連盟の会長、マルセイユ州議会の議長、ボルドー大学の学長等が挨拶をされ、柔道がいかにフランスの中で尊ばれかけがえの無いものになっているかを実感いたしました。

講演の中で『柔道で一番大切なことは相手に対しての敬意尊敬であること。戦う相手は敵ではなく自分を磨き高めてくれる存在であること。そして、なぜ「柔道」というのか?「道」とつくのか。それは柔道を通して得たものを日常生活、人生の中で実践し、生かしていくからである。ただ強いだけでは意味がない。「相手を思いやる心や力を合わせる」「挨拶、そういったことを普段の生活の中で実践することが出来て初めて本当の柔道』と話しました。そして世界で一番それを実践しているのは、フランス柔道連盟なのではないかと話しました。

10周年の記念行事の一環として、フランス3都市で講演と実技指導をしたのですが、柔道を通して「日本の心」を伝えるという私の思いは、伝わったのではないかと思います。フランスで柔道がとても盛んであることは私も大変嬉しく思います。柔道だけでなく他のスポーツもそうですが、学術、芸術、文化、経済、様々な分野で日本とフランスが交流を深め、協力していくことを願っております。

青少年を育てるために

生涯柔道シンポジウム

3月3日に行われました松前柔道塾開塾30周年記念シンポジウムを支援



山下理事長のスピーチ



熱い話を聞く保護者ら

3月3日(土)松前柔道塾の事業の一環としてシンポジウム「未来を拓く女子柔道、柔道クラブにおける女子柔道ジュニア指導の要点」が開催されました。当法人では女子柔道のネットワーク構築や女子柔道家の交流などを推進しており、このシンポジウムを支援しました。

シンポジウムの参加者は54名と多く、橋本敏明副理事長が「女子柔道・オリンピックスポーツへの道」について、基調スピーチを行ない、パネリストとして「女子選手の生理的特徴」を東海大学体育学部宮崎誠司講師、「女子選手への指導上の留意点」を講道館道場指導部向井幹博氏、「選手体験及び指導の両面から」を三井住友海上柔道部手島奈美コーチの3名が参加し、それぞれ提言をしました。

今後の活動予定

中日友好青島柔道館開館!!

2006年秋に調印式を行った中日友好青島柔道館が2007年秋に完成いたします



外務省の「草の根無償支援協力」によって進められてきた「日中友好青島柔道館」が、2007年の秋に完成し開館する予定です。日中両国の子供たちが柔道を通して、日本の文化・伝統を学び、日本の心が伝わる施設になるように、当法人では柔道館に指導者を派遣し、各種行事開催のアドバイスなどをしたいと考えております。

IAJR (国際柔道研究者会)

International Association of Judo Researchers



柔道の学術的なレベルを向上させ若手研究者の育成を目的としたこの研究者会(International Association of Judo Researchers)は、柔道研究者の共同研究や情報交換の場として英国パース大学内に事務所を開設し活動を行っております。柔道研究者のネットワークの構築をすることで、柔道が学術的にもさらなる発展をすることを期待し、当法人では2007年もIAJRを支援していきます。

IAJR事務局ホームページ：<http://www.judoresearch.com>

第2回講演会

講師：ミッシェル・ブルース *Mr. Michel Brousse*



8月27日(月)、国際柔道連盟メディアコミッショナー・オフィシャルリサーチャーのミッシェル・ブルース氏を迎え第2回講演会を開催いたします。ミッシェル氏は、フランスのポルドー大学の教授で専門領域はスポーツの歴史及びスポーツ科学です。

フランスにおける柔道の教育的価値やフランス柔道連盟の活動などを交え、フランスにおける柔道人気維持の方法などを講演する予定です。

日時 2007年8月27日(月) 16:00 ~ 17:40
場所 講道館

東京都文京区春日1-16-30

http://www.kodokan.org/index_j.html

第2回総会

6月14日(木)にNPO法人柔道教育ソリダリティーの第2回総会を開催します



2006年4月に設立したNPO法人柔道教育ソリダリティーも初年度が終了しました。この1年の活動報告や収支決算報告等を第2回総会にて行います。また、第2回総会では、新しい理事のご承認とご紹介を行う予定です。

日時:2007年6月14日(木) 16:00 ~ 霞の間

場所:霞ヶ関ビル33階 東海大学校友会館 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5

ご支援下さい!!!



宛て先
〒259-1292
神奈川県平塚市北金目1117
東海大学
体育学部武道学科第5研究室 リサイクル柔道衣係

世界の柔道仲間へ！ 柔道衣を送ろう！

柔道を学びたくても学べない環境の子供たちが世界中にはたくさんいます。その原因の1つは、柔道衣不足です。柔道衣1着が月給よりも高く、とても手に入れることが出来ない人がたくさんいるのです。NPO法人柔道教育ソリダリティーでは、日頃使われていない柔道衣を集めて、要望に応じて世界各国各地域へ送っています。

この運動に是非ご協力下さい。

送付方法

- 洗濯済みの柔道衣を送って下さい。
名前などついていても、1着だけでも、かまいません。
- 着払いで送付して下さい。
送付にあたっては、ヤマト運輸や佐川急便などの運送会社を使って下さい。

NPO法人柔道教育ソリダリティー 2006年度 会員状況

	個人	団体
正会員	187	51
賛助会員	91	13
アドバイザー	34	

柔道の国際的な普及に寄与するとともに、その活動を通じて人と人との交流を図り、異文化理解を進めることに取り組んでいます。会費・寄付は右記の方法にてご入金いただけます。ご支援をよろしく願います。

活動に興味がある方は・・・
メールマガジン登録
<https://d.blain.jp/sm/p/f/tf.php?id=npojks>



個人会費:年間 一口10,000円(正会員)・一口3,000円(賛助会員)
(一口以上) (一口以上)
団体会員:年間 一口50,000円(正会員)・一口10,000円(賛助会員)
(一口以上) (一口以上)
寄付:特に定額はありせん

FAXにて会員登録をお願いします
入金確認後に本登録をさせていただきます

- 郵便振替 口座記号番号:00200-7-37175
加入者名:特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー
- 銀行振込 三菱東京UFJ銀行 平塚駅前支店 普通口座1573953
口座名称:特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー
理事山下泰裕
横浜銀行 東海大学駅前支店 普通口座1768726
口座名称:特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー
理事山下泰裕